



## 【簿記3級】精算表作成問題

次の【決算整理事項等】にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、会計期間はX1年4月1日からX2年3月31日までの1年間であり、消費税の処理は税抜方式による。

### 【決算整理事項等】

1. 決算日に現金の実際有高を調査したところ、帳簿残高より¥1,000多かった。原因を調査したが判明しなかったため、適切に処理する。
2. 仮受金¥50,000は、得意先から受け取った手数料であることが判明した。
3. 期末商品棚卸高は¥230,000である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。差額補充法による。
5. 備品について、定額法(耐用年数5年、残存価額ゼロ)により減価償却を行う。
6. その他費用として処理していた郵便切手の未使用分¥5,000を貯蔵品に振り替える。
7. 支払家賃は、当期の2月1日に向こう3か月分(¥150,000)を支払ったものである。決算にあたり、前払分を月割で計上する。
8. 借入金¥800,000は当期の10月1日に年利率2%、期間1年の条件で借り入れたものであり、利息は返済時に支払うこととなっている。当期分の未払利息を月割で計上する。
9. 受取手数料のうち、当期分の未収額¥10,000を計上する。
10. 仮払消費税と仮受消費税を相殺し、納付すべき消費税額を確定させる。
11. 当期の法人税、住民税及び事業税は¥300,000であった。なお、仮払法人税等¥150,000は中間納付額である。





### 【簿記3級】精算表作成問題

次の【決算整理事項】にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。

なお、会計期間はX1年4月1日からX2年3月31日までの1年間とし、消費税の処理は税抜方式で行う。

#### 【決算整理事項】

1. 商品¥110,000（うち消費税¥10,000）を売上げ、代金は掛けとしていたが、この取引が未処理されていなかった。
2. 現決算日に現金の実際有高を調査したところ、帳簿残高より¥5,000少なかった。原因を調査したところ、通信費¥3,000が未記帳であったことが判明したが、残額は原因不明のため、適切に処理する。
3. 期末商品棚卸高は¥210,000である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる（差額補充法による）。
5. 備品について定額法（耐用年数5年、残存価額ゼロ）により行う。なお、当期の10月1日に取得した備品（¥500,000）については、月割計算を行うこと。
6. X1年12月1日に期間1年、年利2.4%で借り入れた借入金¥1,000,000に係る利息について、当期分の未払分を計上する。
7. 保険料は毎年11月1日に向こう1年分（¥48,000）を支払っている。決算にあたり、前払分を月割で計上する。
8. 仮受消費税と仮払消費税を相殺し、納付税額を確定させる。
9. 当期の法人税、住民税及び事業税は¥300,000であった。

